

（2）地震活動

ア. 余震の発生状況と今回の地震の発生場所の詳細

今回の地震（25日15時11分、深さ15km、Mw7.9）の発生後、28日頃にかけてまとまった余震活動が見られた。このうち、最大の余震は、26日16時09分に今回の地震の震央の東南東約200kmの深さ17kmで発生したM6.7の地震であった（4月30日現在）。

余震は、今回の地震の震央から東南東方向に長さ約200km、幅約80kmの範囲に分布しており、この地域のプレート境界に平行に分布している。

今回の地震の震央周辺は、北側にユーラシアプレート、南側にインド・オーストラリアプレートが位置し、ユーラシアプレートに対しインド・オーストラリアプレートが南南西方向から衝突し、沈み込む地域となっている。

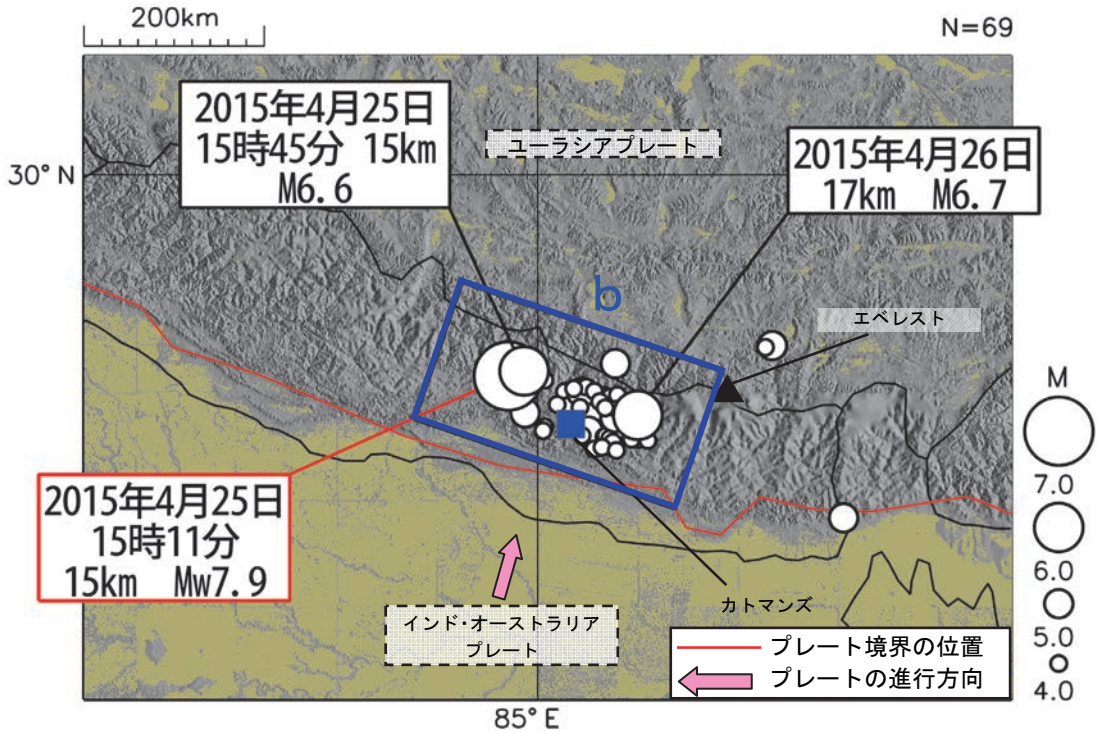


図 2 - 1 震央分布図
(2015年4月25日～4月30日、深さ0～60km、M≥4.0)
(地形に陰影をつけて表示した)

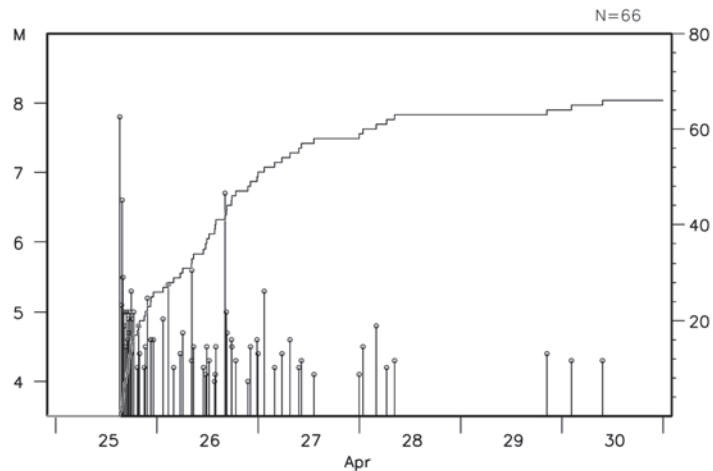


図 2 - 2 領域 b 内の M-T 図及び回数積算図

イ. 過去に周辺で発生した主な地震

1900 年以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺では、M7.5 以上の地震がしばしば発生している。このうち、最大の規模の地震は、1950 年 8 月 15 日に発生した M8.6 の地震である。また、最大の被害（死者 86,000 人以上）を生じた地震は、2005 年 10 月 8 日に発生した Mw7.6 の地震である。

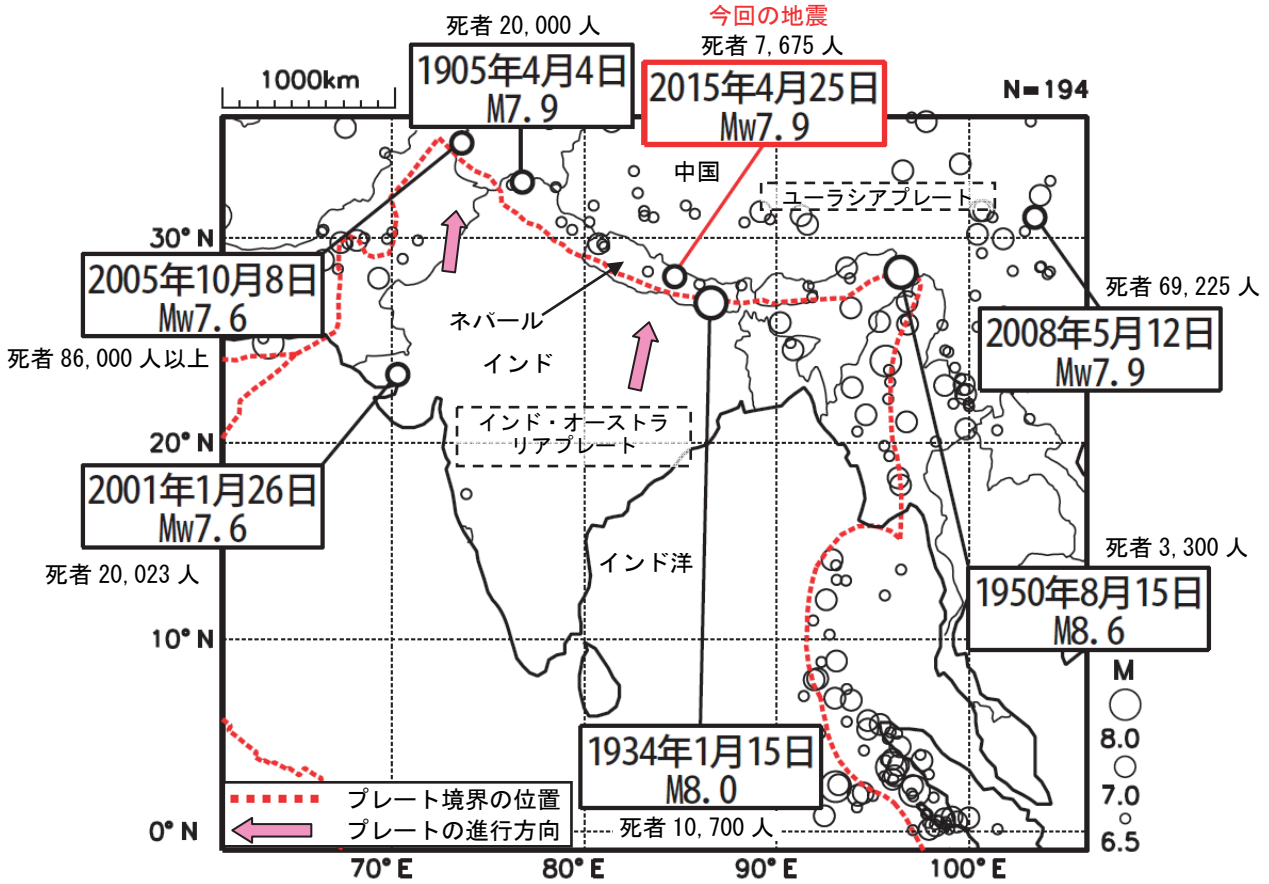


図 2-3 震央分布図***
(1900 年 1 月 1 日～2015 年 4 月 30 日、深さ 0～100km、Mw≥6.5)

***本資料中、1900 年～2009 年の震源要素は国際地震センター（ISC）による。2010 年以降の震源要素は USGS による（2015 年 5 月 5 日現在）。1976 年以降の Mw は GCMT、今回の地震の Mw は気象庁による。プレート境界の位置は Bird (2003) *より引用。
今回の地震の被害は OCHA（2015 年 5 月 6 日現在）による。その他の地震の被害は、理科年表、宇津及び国際地震工学センターの「世界の被害地震の表」による。

*参考文献

Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.